

い・ま・の・村

今金町農業協同組合

2018
10
vol.513

献穀米拔穂祭 在終元丁記念撮影！



祝 献穀米拔穂祭



11月23日の皇室行事「新嘗祭（にいなめさい）」に献上する米を収穫する神事「拔穂祭（ぬいほさい）」が9月25日、鈴岡地区の吉本辰也さんの水田で行われました。

神事が営まれ、拔穂の儀では、献穀者の吉本辰也さん・吉本栄理子さん、小田島親守組合長、刈女姿の岡田紗季さん・池田郁美さん・渥美麻衣さん、吉田汐里さんが、御田植祭から約4か月の時を経て実った品種「ふっくりんこ」を一株ずつ丁寧に刈り取り、刈り取った稲を田長の小田島組合長によって、一束ずつはさ掛けされました。



今金町から米が献穀されることは、関係者はもちろんのこと、農業者や地元の方々にとっても大きな励みとなりました。

収穫された稲は、天日干しして精米し、10月22日に皇居で行われる「献穀献納式」に吉本辰也さん夫妻が出席し、精米五合が献納されます。

実りの秋を迎えて稲刈り・米出荷開始



9月10日、町内のトッ
プを切って今金町稲作部
会長の吉本辰也さんが稲
刈りをスタートさせまし
た。

低温や日照不足で生育
が心配されましたが、太
きな被害もなく無事に収
穫期を迎えた事もあり笑
顔での収穫始めとなりま
した。

また、同月19日からは
ライスターミナルへの出
荷が始まりました。本年
出荷のトップは、稲刈り
開始と同じく吉本辰也さ
ん。品種は「ゆめぴりか」
となりました。午前10時
からは初出荷を祝うセレ
モニーが行われました。
記念品が手渡され、外崎
秀人町長・小田島親守組
合長など多くの関係者と
共に無事出荷を迎えた喜
びを分かちあいました。

馬鈴薯の共同選果が始まりました



馬鈴薯共同選果場にて9
月18日、「今金男しゃく」の
選別作業が始まりました。
低温や日照不足による影響
が心配されましたが、非常
に良い品質・形状となっ
ています。

選果の稼働開始に際して
は職員・作業員に対し訓示
が述べられ、小田島組合長
からは「ブランドを信頼し
て購入して下さるお客様の
気持ちを忘れずに、体調を
崩さないよう、明るい職場
にしていきながら作業に励
んで下さい。また作業中の
事故にはくれぐれも注意し
て下さい。」との言葉があ
りました。

また、品質・規格などを
確認する目揃え会を実施し、
選別作業が開始されました。
今年もホクホクした食感・
甘みを味わえますので、是
非とも今金男しゃくを味
わってみてください。

理事者による圃場巡回が行われました



9月14日の農協理事会終了後、役員による圃場巡回が行われました。今回は、普及センターが行っている試験圃場を確認するため、水稻圃場と大豆圃場を巡回しました。巡回には普及センターの職員にも同行していただき、農産物の生育状況や基盤整備後の圃場での肥料効果確認試験の内容等の説明をいただきました。

今金男しゃくがテレビで紹介されます



9月5日、STVで放送中の「おいしいQるる」の番組スタッフの皆さんが青年部部長の宮本翼さんを訪れ、収穫作業や丹精を込めて作った今金男しゃくを題材に撮影が行われました。今回撮影された内容は、11月21日（水）午後8時54分から9時00分に放送される予定です。興味のある方は是非ご覧下さい！

理事会報告

第12回理事会（平成30年9月14日）

◆報告事項

1. 農業委員会総会報告について
2. 第一委員会の報告について
3. 食用馬鈴薯・種子馬鈴薯収量調査結果について
4. 農畜産物の販売状況及び生育状況について
5. 抜穂祭について
6. 地鎮祭について
7. 地震による停電について
8. JA今金町夏祭決算報告について

◆議決事項

- 議案第1号 平成30年度賦課金の減免について
議案第2号 職員の海外出張に伴う日当の支給額について

◆協議事項

1. 平成30年度資産評価見直しについて

10月の営農対策

() は、9月15日作況調査の平年値との遅速日数

今後の農作物管理		今後の農作物管理	
水 稲	水稻 (遅2日) 今年も気象変動の大きい年となりました。7月2半旬の低温以降分げつが止まり、そのまま穂数が少ない状態となりました。稈実率はほぼ平年並でしたが、8月上～中旬の低温で開花不順やその後の登熟が大幅に遅れました。しかし9月上～中旬の好天続きで黄化が加速し成熟期は9月中旬となりました。 ・・・来年に向けては ・ 先ず、ほ場の乾燥化を促しましょう。 ・ 収穫作業で傷んだほ場の枕地や轍(わだち)の表面水は溝切りを行い、ほ場外に排水しましょう。ほ場が乾燥している状態で心土破砕を施工し透水性を高めましょう。 ・ 次に、稲わらの処理です。 ・ ”わら焼き”も許されない時代ですので、(できるだけ)秋鋤込みを検討して下さい。収穫後早めに鋤込み、腐熟を促すことがポイントです。尚、鋤込む場合はスタブルカルチなどによる”粗耕起”とします。ロータリ耕は水はけを悪くしますので避けましょう。 ・ 畦畔の補修も忘れずに ・ 水田の土壌診断実施を pHや燐酸及び塩基(石灰・苦土・加里)の他、ケイ酸や培養窒素の診断を行い施肥改善(土改材含む)に繋げましょう。・・・近年、燐酸の富化⇒燐酸減肥の可能性を確認した上で、適正銘柄の検討を進めましょう。	畜 産	牧草 飼料用とうもろこし(遅5日) ・ 貯蔵飼料の確保量を確認し、飼料給与計画を立てましょう。 ・ 収穫した粗飼料の確保量と品質を確認し、来春までの飼料給与計画を立てましょう。粗飼料不足が予想される場合は早めに対処しましょう。 ・ 刈り遅れや雨に当たった牧草は、栄養成分やビタミン、ミネラルなどが低下する場合がありますので、不足する成分を補給しましょう。 ・ とうもろこしサイレージは発酵品質を確認し、腐敗した部分を取り除き、変敗した飼料を給与しないように注意しましょう。また、カビ毒に汚染されている可能性もあるので、乳牛の状況(軟便、透明の鼻汁、乳質の悪化など)を確認し、良質な飼料で希釈するなどの対応を行う。状況に応じてカビ毒吸着剤の使用を検討しましょう。 ・ 退牧直後の乳牛は、急激な環境変化を避けましょう。 ・ 公共牧場から退牧した牛は、一旦放牧地やパドックで飼養して急激な環境変化を避け、十分な観察を行いながら徐々に舎飼いに移行すましょう。また、伝染性の皮膚病などが認められる牛は、完治するまで別飼いを行いましょう。 ・ 炭カル等の草地表面施用を実施し、適性土壌pHの維持を図みましょう。 ・ 草地は播種後年数が経つに従い、土壌の酸性化が進み、牧草の収量が低下します。酸性化を防ぐために石灰質肥料を施用しましょう。施用の目安としては、2～3年毎に炭カル40kg～60kg程度を表面施用しましょう。 ・ 土壌分析をしましょう ・ 来年の適正施肥のため、土壌分析を行いましょう。計画的に毎年、何筆か調査し、植生改善のための施肥について検討しましょう。 飼養管理 ・ 分娩前後の飼養管理 ・ 肉用牛では妊娠末期における低栄養は胎子の発育に影響し、虚弱子牛症候群の発生要因となることから、分娩前後の増飼いを行うなど栄養管理を適切に行いましょう。 ・ 酪農では乳量・乳成分に注意し、乾物摂取量の確認を行い、ボディコンディションの回復を図りましょう。 ・ 初乳の給与 ・ 自然保育や人工保育の別に関わらず、飼養環境改善(消毒や換気)を行い衛生的な環境を保つとともに、人工保育の場合は良質な初乳を、なるべく早く、遅くとも6時間以内に十分に給与しましょう(目標は3L以上)。 ・ 子牛の寒さ対策は今から準備! ・ 子牛の管理適温は13～25℃です。朝晩冷え込んできますので、牛床に敷料をたっぷり使い、汚れたら取り除き乾いたものを追加しましょう。
	秋まき小麦 ・ 雪腐病の防除を行いましょう ・ 融雪の遅いほ場や滞水しやすいほ場では、特に雪腐病の発生が懸念されます。 ・ 越冬前(根雪前)の防除や翌春の融雪剤散布等を実施しましょう。 ・ 大豆(±0日) ・ 天気を考慮し適期収穫を! ・ ほ場の成熟期、子実水分を確認し、収穫前には汚粒防止のため、わい化病株や雑草を抜き取りましょう。 ・ <コンバイン収穫の目安> ・ 子実水分 20%以下、茎水分 40%以下。 ・ 汚粒防止のため、収穫作業は晴天の日中に行う。 豆類 ・ タイズシストセンチュウの被害が発生したほ場では、次の豆類作付までの間隔をあげましょう(大豆と小豆の連作も避ける)。 ・ クローバ類や抵抗性品種を導入するなど、センチュウ密度を減らす対策を検討しましょう。 てんさい(早1日) ・ 集荷時期にあわせて、計画的に収穫しましょう ・ ほ場が過湿状態で収穫を行うと、土砂の混入が多くなるので注意しましょう。 ・ 次年度に向けたほ場づくり ・ 茎葉は、収穫後できるだけ早くすき込みましょう。茎葉をすき込むことにより、次年度作物で減肥することが可能となります。 畑作物共通 ・ 次年度の作付に向けて、土壌診断を行いましょう ・ 収穫が終わったほ場は、土壌(15～20cm)を採取しましょう。 ・ pHの改善 ・ 作物の生育不良などは土壌の酸性化が原因の場合があります。 ・ 土壌診断値に基づき、秋のうちに炭カルなどで酸度矯正を行いましょう。 ・ 適正な施肥 ・ ほ場における養分の蓄積状態とバランスを知り、作物にとって適正な養分状態に調整することが大切です。 ・ 堆肥を定期的に投入しているほ場は、加里過剰になっている場合があります。加里成分を抑えた肥料を施用し効率的な施肥を計画しましょう。		園 ブロッコリー 気温が低下すると「細菌性病害」の発生が多くなるので、「コサイド3000」等で予防的に防除を行いましょう。 10月中旬～下旬収穫の作型で発生しやすいので注意しましょう。 だいこん・こかぶ 気温8～10℃で「白さび病」(ワッカ症)の発生に注意が必要です。薬剤防除は発生初期からおこない、展着剤を加用して下葉の葉裏にも十分付着するように心がけましょう。 芸 ミニトマト 気温が下がると、着色が遅くなるとともに、「裂果」の発生が増えます。土壌水分の急変や、ハウス内の過湿(特に早朝)が発生を助長します。 明け方のハウス内は過湿状態になっています。気温が低くても、朝は毎日必ずハウスを開けて「モヤ抜き」をしてください。

檜山農業改良普及センター 檜山北部支所

TEL 0137-84-5514

FAX 0137-84-5596

E-mail hiho-nokai-hokubu.11@pref.hokkaido.lg.jp

檜山 普及センター

平成30年北海道胆振東部地震及び台風21号により、亡くなられた方々の御冥福を心からお祈りするとともに、被災された全ての方々にお見舞いを申し上げます。

この度の災害に関しまして、各連合会の取り組み内容をお伝えします。

J A北海道中央会

J Aグループ北海道では、9月6日、「平成30年北海道胆振東部地震・台風21号に係る農業



団体災害対策本部」を設置し、胆振東部地震の被害に対し、緊急的に営農資材や生活物資の支援や農業関連施設の復旧に向け人的支援を実施しました。

政府・与党などに対しては、被害状況や現地が必要とする対策を迅速に伝え、ライフラインや農地・共同利用施設等の復旧、被災農業者の営農継続支援、災害に強い農山漁村づくりに向けた整備など万全の対策を求めています。

また、組合員が、安心して営農を継続できるよう、北海道電力株式会社に、対し電力の安定供給ならびに万全な発電・通電体制の構築を要請しています。

J A北海道信連

J Aバンク北海道では、窓口対応として通帳等をなくされた方に対して、一定の範囲内でお支払に応じてさせていただきます。



また、被害組合員に対する相談窓口を設置し、被災された組合員が今後必要とする資金のお借入れや既往借入金のご返済等に関する相談をお受けする等、関係機関と連携を十分にとりながら金融支援対応に万全を期していきます。

J A北海道厚生連

北海道厚生連では、行政、J A、関係機関等の協力を得て早期に診療体制の回復に向け対応いたしました。



組合員の皆さまが一日も早く平穏な生活を取り戻すことができますようお祈りいたします。

J A共済連北海道

J A共済連では、9月18日から連日25名体制で被害調査・査定体制を組み、現地に赴き早急に調査・支払いを進め、復旧支援に努めています。



一日も早い復旧を心からお祈り申し上げます。

ホクレン

ホクレンは、「北海道胆振東部地震・台風21号対策本部」を設置し、被害にあわれた生産者の皆様の一刻も早い復旧に向け、要請に応じた人的・物的支援を含め、農畜産物の生産、貯蔵、流通の正常化に向けた活動を続けております。



今回の災害に際しまして、協同組合の力を結集し、会員J A・組合員の皆さまが一日も早く、平穏な生活を取り戻すことができますようお祈り申し上げますとともに、ホクレンとしての役割を今後も全力で果たしてまいります。



育てるのは、



やはり人。



JAグループ北海道

農業経営フォーラム

定員200名 参加無料

2018年 **11月7日** 水

13:30~17:00 ◎受付開始/12:30

札幌ビューホテル 大通公園

(旧 東京ドームホテル 札幌)

地下2階「ピアリッジ」札幌市中央区大通西8丁目

講師

<第一部>

13:40~15:00

トップリバー流の人材育成

しま ざき

ひでき

嶋崎 秀樹氏

(有)トップリバー 代表取締役
長野県農業法人協会 会長
(公社)日本農業法人協会 理事



講師

<第二部>

15:20~16:50

いま経営者に求められるもの
～松下幸之助の人づくり～

じょうこう

あきら

上甲 晃氏

志ネットワーク 代表



主催 JA・JA北海道信連・農林中央金庫



JAバンク北海道

JA・信連・農林中金

お問い合わせは、金融部 貯金融資課まで TEL: 0137-82-0211

JA広報いまかね 513号 ホームページ <http://ja-imakane.or.jp/>

発行: 今金町農業協同組合 住所: 北海道瀬棚郡今金町字今金 141 番地 電話: 0137-82-0212(直通) 編集: 営農部農業経営課 印刷: 今金はやし印刷社